



今回は、ケアマネジャー研修にF-SOAIPを取り入れ普及定着を推進している埼玉県ケアマネジャー協会による実践報告と、大学の授業や講座でF-SOAIPを学び、思考過程の可視化に有用性を実感している福祉専門職を目指す学生からの報告を紹介します。4コマ漫画も登場です。

## 協会挙げてのF-SOAIP推進の成果と展望

一般社団法人埼玉県ケアマネジャー協会 宮崎和代

### F-SOAIPを推進する協会として 参加したリーダー養成研修

「記録」は業務のなかで多くの時間を占めながらも、事実を記すことに留めるべく時間を消耗し、達成感がないまま記録のページを閉じているのが現状で、多くの専門職が抱える悩みでもあります。

このような専門職を支援すべく当協会はF-SOAIPの推進に力をいれ、全国的なオンライン研修や県レベルでの研修依頼を受けるようになってきました<sup>1)</sup>。今回は当協会のF-SOAIP研究メンバーのひとり山田和子理事の取り組みから、業務の効率化を図るだけでなく自己肯定感を高めるために、まず協会理事・講師が乃木坂スクール<sup>2)</sup>でF-SOAIPを学び、さらにF-SOAIPの普及活動を通じて確信したF-SOAIP効用の一端をご紹介します。

### F-SOAIP研修で 事例検討・事例研究に活用

当協会では、①情報を整理する、②課題を俯瞰して捉える、③次の展開につながる記録を意識し、「わかる記録」「情報を共有するための記録」を、とのテーマでF-SOAIP研修を試行錯誤しながら行っています。また出向研修では、演習や事例検討、事例研究にF-SOAIPを取り入れています。

F-SOAIP研修の展開上の留意点1つ目は、「記録者の視点で書く」直接援助する立場と、スーパーバイザーの立場では記録は変わるということです。2つ目は「項目分けは記録者の立場で異なる」ということです。誰の意向や助言か、誰から聞いたまたは誰が発信した情報か、書き手によって整理の仕方は変わります。3つ目は「『A』『I』『P』が専門的なサポート力を高める」ということです。知

り得た情報を整理・分析し、次のアクションが明確になることで継続的な支援、チームケアにつながります。

### 日々の面接メモに応用

F-SOAIPは支援経過記録だけでなく日々の面接メモに活用できます。F-SOAIPの6つの項目を意識し整理しながらヒアリングすることにより、利用者もしくは家族や関係者が課題に気づくことや的確な判断に結びつくことがあります。

### サービス担当者会議での成功例 ～合意形成への貢献～

介護保険の住宅改修申請前の担当者会議でF-SOAIPで整理しながら会議をサポートした結果、大規模な住宅改修を行わない方向に至ったケースがあります。転倒を防ぐために住宅改修を希望する家族、家族の

F-SOAIPの6項目の意味すること

F：タイトル S：主観的情報（利用者等の言葉） O：客観的情報 A：考えたこと I：対応したこと P：予定